

終章 環境パフォーマンス指標の確立に向けた今後の課題

1. 個別指標に関する残された課題

● 算定方法の開発

環境保全の観点からは重要だが、用語の定義や範囲が決まっていない又は混乱している、科学的に測定方法が確立していないなど、算定方法が確立していない指標がある。これらについて検討を進め、算定方法等の確立を図っていくことが必要である。

とりわけ、拡大生産者責任（EPR）の考え方を踏まえ、製品に係る環境負荷について、生産、流通、使用、廃棄等のライフサイクル全体にわたって評価できるような指標、算定方法の開発が求められている。

● より詳細な業種毎の指標の検討

業態別主要指標の検討は、現時点では、大括りの業態分類に留まっている。今後、より詳細な業種毎に、主要指標の検討を進めていくことが必要である。

2. 総合的評価のための指標の確立に向けた検討

幅広い関係者の意思決定に反映させるためには、簡略な指標により総合的な評価を可能とするような手法の検討が重要である。まず、「総合的評価の基本的考え方」を検討した上で、それを踏まえて、次のような点が検討課題となる。

- 経営関連指標との統合が図られた指標づくり。
- 共通的主要指標又は業態別主要指標のうち、代表性の高い少数の指標をピックアップすること。
- 製造業と非製造業の間のようにそもそも排出原単位が異なる業種間において、環境パフォーマンスを公正に評価する方法の検討。
- 共通的主要指標又は業態別主要指標について、重み付けをして統合するというアプローチ。
- 事業エリア内のみならず、原材料などの上流部分と、下流部分である製品・サービスに関する負荷も含めたLCA的アプローチの指標づくり。

以上については、幅広く関係者や有識者からの意見や協力を得ながら、引き続き、指標の追加、改善等の見直しを図っていく予定である。

事業者の方々には、本ガイドラインに基づき、実際に環境パフォーマンス指標を選択し、環境パフォーマンスを把握、評価していただくとともに、外部の利害関係者の方々にも、環境報告書に記載された事業者の環境パフォーマンスを評価していくことをお願いしたい。そして、その結果、本ガイドラインに問題点や課題等があれば随時意見を提出していただくことを期待しており、本ガイドラインの改善に役立てていきたいと考えている。